

平成29年度 宇佐市興農会表彰

(敬称略)

No.	表彰区分	氏名 (法人代表者)	住所	功績等
1	農業後継者	ながの よしはる 長野 由治	大字江熊	<p>農業大学を卒業後、父の農業を手伝っていた。 平成26年から、畑を借り受け、大麦若葉の生産を開始し、平成28年には、繁殖雌牛を10頭導入し、新たに畜産経営にも取り組んでいる。父が経営している水稻等も主となって取り組んでいる。 今後の、宇佐市の農業を担っていく若手の一人として期待されている。 本年末頃より、昨年導入した繁殖雌牛の出産が始まり、良血統牛については自家保留など行い、規模拡大を図っていく意向である。</p>
2	優良生産農家	ひだ とよはる 樋田 豊治	大字上敷田	<p>上敷田土木総代として、7年間にわたり尽力している。土地改良区会計監査委員、土地改良区 庄、敷田委員長を歴任し、今年度よりJA総代を任命される。また、地域の環境保全組合長として、農地などの環境整備にも、組合員を率先垂範し、積極的に取り組んでいる。 農業資材を安く仕入れるため、まとめ買いなどを計画的に行い、高品質な農産物の生産を目指すため、農業経営を研究、工夫を重ねて毎年取り組んでいる。</p>
3	優良生産農家	おおもり けんご 大森 健吾	大字畑田	<p>代々続く、農家の長男として農業に真剣に取り組み、認定農業者とし農業の近代化等に日々、尽力している。地域の農家の模範となる優良生産農家でもある。また、休日ともなれば息子も手伝い、家族全員で農業に取り組んでおり、日頃より地域の農業、農地を守る役目も担っている。</p>
4	優良生産農家	ひがし いさお 東 功	大字葛原	<p>葛原アグリ倶楽部の構成員として、葛原地域を中心に営農を展開。その葛原アグリ倶楽部は大分県知事表彰をはじめ、農協中央会表彰や全国米麦改良協会表彰などを受賞する。 葛原アグリ倶楽部の会計事務も担当しており、地区農業の発展、活性化のため尽力している。また、農業委員としても農業の発展、農地の保全にも努めている。</p>
5	優良生産農家	しもはら ひとし 下原 均	大字北宇佐	<p>友人と建設会社を設立し、共同経営を行っていたが、農業への思いが強く、昭和59年より肥育牛200頭を飼養開始し、その後、地域の水田を集積し水稻の経営も徐々に広げてきた。 地域の祭りでは、毎年もち米を寄付しており、地域住民からも非常に感謝されている。</p>
6	優良生産農家	よこいち みのる 横市 稔	大字森山	<p>平成7年に宇佐市に帰省し、農業後継者として父と、小ねぎ栽培を行う。その後、JA大分宇佐小ネギ部会青年部長を歴任。青年農業者会議の一員として、宇佐市産業祭、県農業祭などに参加し開催に貢献する。青年農業者会議として阪神淡路大震災の被災者に対し、米と小ネギをいち早く寄贈している。 土づくりを研究し毎年の土壌診断においては、周りの農家からも好評価を得ている。</p>
7	優良生産農家	みやもと たまあき 宮本 玉昭	大字下庄	<p>地区の土木総代として尽力しており、人望も厚い。農地の地力を回復するため堆肥生産、酪農から得た廃棄物肥料化等にも積極的に取り組み、有効活用している。農業機材も常に清掃、整備を行っており機械の運転率を高めている。また、農業用水安定的供給を図るため、用排水路の清掃、整備を自主的に実施し、地域内での水循環がスムーズに進むように絶えず努力し、多面的機能発揮のために貢献している。</p>

平成29年度 宇佐市興農会表彰

(敬称略)

No.	表彰区分	氏名 (法人代表者)	住所	功績等
8	農業生産法人等	(農) <sup>のうしゅ</sup> 農守さざれ	大字佐々礼	<p>高齢化による将来の担い手不足や機械への過剰投資を抑えるため、任意組織の全員と話し合いを進め法人を設立した。</p> <p>パン用小麦の栽培技術を確立し、(有)宇佐パン粉との農商工連携を行っている。また、地域の小学生を対象とした食育活動、佐々礼環境保全会・花部会・子ども会との美化活動など地域活動の中心として活躍している。</p>
9	農業生産法人等	(農) <sup>になぎえいのう</sup> 蜷木宮農	大字蜷木	<p>蜷木地区は、水稻を中心に大豆や麦の栽培が盛んに行われており農地利用率も高い。しかしながら、近年高齢化等によりリタイアする農家が増えているが、集落の農地を法人が請け負い、農地を維持し、効率的な農地利用を図っている。</p> <p>蜷木地区は、水稻を中心に大豆や麦の栽培が盛んに行われており農地利用率も高い。しかしながら、近年高齢化等によりリタイアする農家が増えており、集落内の大規模農家との共存共栄を図っている。</p>
10	農業生産法人等	(農) <sup>しもやべ</sup> 下矢部	大字下矢部	<p>任意の集落営農組織を起ち上げ営農を行っていたが、高齢化等で個別経営の限界を感じた。任意組織の構成員全員で話し合いや法人化研修を行い、来を見据えた結果、法人の設立となる。</p> <p>下矢部集落は水稻を中心に大豆や麦等の栽培が盛んに行われており、農地利用率も高い。しかしながら、近年高齢化等によりリタイアする農家が増え、地区内には他集落からの大規模農家の入作もあり、共存共栄を図っている。</p> <p>平成2年には「豊かなまちづくり全国表彰」で九州農政局長賞を受賞。</p>
11	農業生産法人等	(株) <sup>いしわださんぎょう</sup> 石和田産業	大字山本	<p>(株)三和酒類は安定的に醸造用ぶどうのを自社で確保するため平成21年に(株)石和田産業として活動を再開した。平成22年に初めて造成・植栽を行った。今後も面積拡大予定であり、荒廃園の解消と安心院ぶどうの新たな担い手として期待される法人である。安心院地域では、昭和40年代の国営開拓パイロット事業により樹園地造成が行われ、西日本有数のぶどう産地となっている。しかし、農家の高齢化や担い手不足により、荒廃園が増加。このような中、今後大規模な樹園地再編が進められており、その新たな担い手として期待されている。</p>
12	農業生産法人等	(株) <sup>かいのうさん</sup> 甲斐農産	大字山	<p>(株)甲斐農産は家族経営で水稻・麦・牛の肥育を行っていたが、経営管理を明確にするため平成23年度に株式会社を設立した。</p> <p>山地区では、農業者の高齢化により農家数が減少。(株)甲斐農産は地区の農地の約半分を集約。畜産部門については、現在377頭を肥育しており、地域の中心的担い手として活躍している。</p> <p>平成29年9月に開催された、第11回全国和牛能力共進会宮城大会では肉牛の部第8区において大分県代表牛として2頭選出され、大分県が全国で総合3位となった成績に貢献した。</p>